

木曾での掃天の範囲は、銀経については 30° 間隔で銀緯 $\pm 10^{\circ}$ を覆うのを第一段階とし、次に銀緯は $\pm 2^{\circ}$ に絞って銀河面を埋めていくことにした。それぞれ約60の撮影天域となる。現在は第一段階をほぼ終えた所である。観測上の問題点は、赤色巨星には変光星が多いのでスペクトル写真とV, I二色での直接写真を短期日のうちに撮る必要があることである。対物プリズムの付けはずしはそれほど頻繁に行うわけではないので、天候に恵まれず一部の写真しか得られないこともよくある。この様なロスを除けば一天域あたりの撮影時間の合計は4時間程度である。これに比して、はるかに大変なのは整約であって、図5(表紙)の様な星の数の多さは研究上の利点であっても整約上では負担以外の何物でもない。通常の整約——検出・分類・位置測定・等級測定をそれぞれ専用の測定機で行っていると観測時間の数百倍の時間を要してしまう。そこで測定の自動化がどうしても望まれる。木曾観測所のアイソホトメーターは汎用の高速測定機としてこの要望に答え得るものであり、ソフト面での開発を手のつけやすい部分から始めようとしている段階である。

お知らせ

“太陽系内の小天体”研究集会

日 時： 1980年11月5～7日

場 所： 埼玉県越生町大字古池

埼玉厚生年金休暇センター

(Tel. 049292-6111)

内容： 小惑星・彗星・衛星、流星など太陽系内の微小天体の観測・実験の面からの研究の現状、将来の見通し等の情報交換、討論を行ない、これらの諸天体の相互関係を明らかにする一助としたいと思います。

(古在由秀)

研究発表、参加御希望の方は下名宛御連絡下さい。

〒181 東京都三鷹市大沢東京天文台

斎藤馨児

畠田弘一郎

わが国唯一の天体観測雑誌 天文ガイド

定価350円(税込49円) 80-11月号・10月5日発売!

●11月号のおもな内容

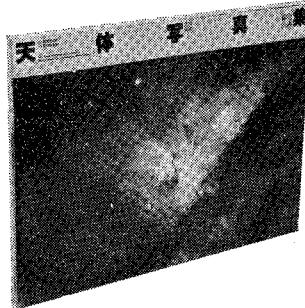
- ★初冬の星空の紹介を秋田勲さんにしていただきます。
にぎやかな冬の空がいよいよ始まります。
- ★この夏各地で開かれた星を見る会を記事ページで紹介。
『星空への招待』はグラビアで案内。
- ★ニューデリー郊外のインド古代天文台にある見なれない機器などを豊富な写真で解説。
- ★京都大学上松観測所の赤外線望遠鏡が大改修され、鏡面も作りかえられました……。
- ★ほかに、エンケ彗星とおうし座流星群の観測、ボタ赤の作り方、H II領域めぐり、私の愛機、同好会だより、11月の星空など。

月刊 天文ガイド 別冊 スペシャル 天体写真集

*Kitt Peak National Observatory
Cerro Tololo Inter-American
Observatory*

これだけまとめて紹介した写真集は

日本ではじめて。ファン待望の書!



A4変型判・84ページ・定価1700円・好評発売中

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
振替東京7-6294 電話03(292)1211